

Ⅲ. 社会情勢の変化

1. カーボンニュートラル社会の実現に向けた動き

温暖化は地球規模の深刻な問題であり、早期に解決すべき喫緊の課題です。気候変動問題の解決と世界に誇る北海道の創造に向けて、北海道が有する豊かな自然や地域資源を利用した再生可能エネルギー、吸収源となる広大な森林などを最大限活用し、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進めるため、道では、2022年3月に「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」を改定するとともに、2023年3月に「北海道地球温暖化防止対策条例」を改正しました。2050年までに、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」を実現し、道民が健康で快適に過ごすことができ、真に豊かで誇りを持てる社会を、次の世代につなげていきます。



2050年のゼロカーボン北海道のイメージ

2. コロナ禍を踏まえた新たな生活様式の拡大

新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療現場だけでなく、飲食店等の営業時間短縮など経済にも大きな影響を及ぼしました。

一方で、こうした長期にわたる新型コロナウイルスへの対応の中で、これまで効率性や利便性を追求してきた密集・密接から、人との距離感や地域分散の重要性に気付かされるなど、国民の行動や価値観に変化をもたらしています。今後は、感染症対策と社会経済活動の両立が可能となる強靱な社会の構築はもとより、広域分散という北海道のハンディをリスク分散という新たな価値に転換し、産業や雇用、生活の場を創出していくとともに、デジタル・トランスフォーメーションやカーボンニュートラルの推進といった、コロナ以前への回帰にとどまらない新たな社会の実現に向けた取組を加速していく必要があります。